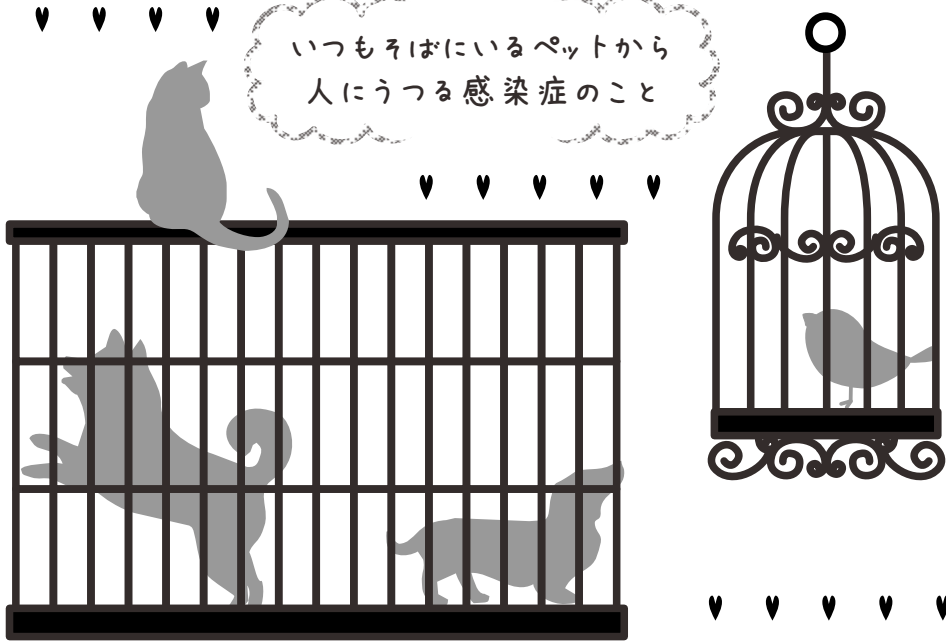


ペット由来感染症

いつもそばにいるペットから
人にうつる感染症のこと



ペットから人にうつる 感染症を知っていますか



近年ペットを飼う人が増加し、ペットから人にうつる感染症が増えて問題になっています。
動物から人にうつる感染症は国内で約50種類あり、そのうちペットからの感染症は30種類ほど知られています。

動物由来の感染症例 原因となる病原体は、細菌・真菌・寄生虫・原虫・ウイルスなど

病名	感染源となる動物	主な症状
ネコひっかき病	ネコ・イヌ	発熱・リンパ節の腫れ <small>風邪のような症状</small>
オウム病	インコ・オウム・文鳥・ハト	発熱・咳 <small>インフルエンザのような症状</small>
トキソプラズマ症	ネコ	リンパ節炎・流産
イヌネコ回虫症	イヌ・ネコ	発熱・ぜんそく・視力障害
皮膚糸状菌症	イヌ・ネコ・ハムスター	発疹・皮膚炎・脱毛
サルモネラ腸炎	イヌ・ネコ・カメ・は虫類・鳥・ハムスター・ウサギ・サル	胃腸炎・下痢・発熱
カンピロバクター腸炎	イヌ・ネコ・小鳥	胃腸炎
クリプトコッカス症	ハト・小鳥・ネコ	脳髄膜炎・肺炎 <small>風邪のような症状</small>
パスツレラ症	ネコ(ほぼ100%保有)・イヌ	傷口の腫れ・気管支炎・肺炎
Q熱	イヌ・ネコ	発熱・頭痛・関節痛 <small>インフルエンザのような症状</small>
カプノサイトファーガ症	イヌ・ネコ	敗血症
エロモナス感染症	観賞魚	水様性下痢・腹痛・血便

詳しくは2〜3ページ

上記の他に…狂犬病・エボラ出血熱・ウエストナイル熱 など

感染経路
について



ペットは人と密着した距離で家族のように生活を共にするため、直接感染が発生しやすくなっています。
接触による感染、唾液などによる飛沫感染、噛まれたりひっかかれた傷口からの感染、排泄物が付いた手から口に入る経口感染などの感染経路があります。

代表的なペット由来感染症について、次ページから紹介します。

①

宣言

明るい
笑顔

すぐ
返事

伝える
元気

かちどき薬品
げんき君 ホームページ

健康に関する情報がいっぱい

<http://www.genki1616.co.jp>

かちどき薬品グループ



かちどき薬局のブログ
ameblo.jp/kachidoki-blog



Seedling 2018 3月号

Copyright © 2018 かちどき薬品株式会社 <http://kachidokikk.co.jp/>
健康情報サイト げんき君 <http://genki1616.co.jp>

由来

代表的なペット感染症

身近なペットから人に直接うつる感染症です

ネコひっかき病

病原体

バルトネラ

症状・特徴

ひっかかれてから約1週間後に虫さされのような発疹ができる。2~3週間後に発熱・悪寒・リンパ節の腫れ・倦怠感など風邪と似た症状が出て、数週から数ヶ月間続く。重症になると脳炎や目の奥の炎症が起こる。抗生物質による迅速な治療を要する。
【似ている感染症】パスツレラ症

感染経路

特に子ネコの爪や口の中に存在し、ひっかかれたり噛まれて感染する。ネコのノミに噛まれても感染する。

トキソプラズマ症

病原体

トキソプラズマ原虫

症状・特徴

感染しても無症状の「不顕性感染」が多い。リンパ節炎で発症し、まれに目や脳の炎症を起こすこともある。妊婦に感染すると流産や先天性障害が起こる場合があり、注意が必要。

感染経路

ネコ・イヌ・家畜全般が宿主で、主にネコの排泄物に含まれる原虫が人の口に入ると感染する。

イヌネコ回虫症(トキソカラ症)

病原体

回虫

症状・特徴

イヌやネコの体内では成虫になるが、人の体内では幼虫のまま移動して内臓や目に入り、さまざまな症状が現れる。子どもに多く見られ、内臓に入ると発熱・ぜんそく・肺炎など、目に入ると視覚障害や視野障害が起こることがある。

感染経路

イヌやネコの排泄物に含まれる卵やペットの毛に付いた卵が、人の口に入ると感染する。卵は公園の砂場や有機野菜に付着している場合もある。

由来

代表的なペット感染症

身近なペットから人に直接うつる感染症です

オウム病

病原体

クラミジア

症状・特徴

1~2週間の潜伏期を経て、高熱・頭痛・咳・筋肉痛・倦怠感などインフルエンザのような症状が現れ、急性肺炎になることもある。抗生物質が有効なので、早期に診断を受けることが重要。

感染経路

インコ・オウム・ハトなどの鳥の排泄物に存在し、乾燥したフンを吸い込むと感染するほか、鳥の唾液から人の口に入り感染する。

サルモネラ腸炎

病原体

サルモネラ

症状・特徴

激しい下痢や腹痛・嘔吐・(発熱)が1週間ほど続く。便に膿や血液が混じることもある。免疫力が低下している方・幼い子ども・高齢の方がいる家庭では特に、カメやは虫類の飼育は控えたほうがよい。
【似ている感染症】カンピロバクター腸炎

感染経路

イヌ・ネコ・カメ・は虫類・ハムスター・うさぎなどの排泄物に存在し、汚染された水や食品から感染する。

皮膚糸状菌症

病原体

皮膚糸状菌(白癬菌)

症状・特徴

発疹・皮膚のかゆみ・化膿・脱毛など。ペットにも同様の症状が現れることがあり、通常は抗真菌薬を使って治療できる。感染源であるペットも同時に治療する必要がある。

感染経路

皮膚病にかかっているイヌ・ネコ・ハムスターなどに接触することで感染する。

ペット由来感染症を防ぐには

地球上には人間と動物が共生しています。むやみに恐れて動物を排除するのではなく、上手な付き合い方を知り、トラブルを未然に防ぐことが大切です。

🐾 🐾 🐾 ペットとの生活を安心して楽しむために 🐾 🐾 🐾

過剰なふれあいは控えましょう

動物の口の中や爪に、細菌やウイルスなどの病原体が潜んでいる場合があります。体毛に真菌や寄生虫の卵などの病原体が付いていることもあります。

家族の一員だけと人間とは違います

口移しで食事を与えたりスプーンや箸を共用するのは止めましょう



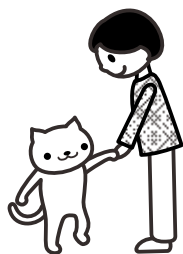
同じ布団で一緒に寝たり一緒に入浴することは控えましょう



動物を触ったら必ず手を洗いましょう

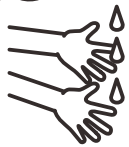
動物自身は病気を発症していなくても人に感染する病原体を保有することがあり、気付かないうちに動物の唾液や傷口に触れ、感染してしまうこともあります。

細菌などの微生物は目に見えないので油断しがちです



動物を触ったら必ず手をよく洗いましょう

どんな動物でも念のため…



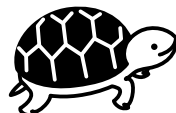
動物を抱いた服のまま調理をせず、着替えるかエプロンを着けましょう

④

… ペット由来感染症を防ぐには …

ペットの身の回りを清潔にしましょう

動物の体やケージ・敷物・鳥かご・水槽などが汚れていると、病原体が増殖しやすくなります。



カメや魚の飼育水はこまめに交換し、排水で周囲を汚染しないようにしましょう

ブラッシング・爪切りなどのお手入れと同時に、ペットの小屋の掃除を行い、いつも清潔に保ちましょう

排泄物は速やかに処理しましょう

排泄物が乾燥すると病原体が空気中に漂い、吸い込みやすくなります。

素手で直接触れずに素早く片付けましょう

換気を心がけましょう

鳥の飼育では、羽毛や乾燥した排泄物が室内に充満しやすくなります。



鳥かごや室内を清掃し、空気の入替えをこまめに行いましょう

ペットはしつけをして飼いましょう

飼育する動物により、しつけも必要です。主従関係が逆転してしまい、飼い主によるしつけがきちんとできていない場合、感染症のリスクが高まる場合があります。



食卓に動物が乗らないようにしましょう

イヌの噛み癖をなくしましょう

トイレは決まった場所にさせましょう

⑤

感染症リスクの高い動物を 安易に飼うのは控えましょう

イヌやネコ以外の動物をペットとして飼育する人が
増えています。これらの動物は、どのような感染症が
あるのかよくわかっていないため特に注意が必要です。



病原体を持ち込む恐れのある動物の
輸入は、日本の法律で禁止されています。

❗ 輸入が禁止 されている動物

プレーリードッグ
コウモリ
イタチアナグマ など

ネズミ・リス・プレーリードッグは「ペスト菌」を
保有していることがあります。
それらの動物に付いたノミが人を刺すと感染し、
適切な治療をしないと命を落とすことがあります。

人気が高まっているカワウソは、生態について
未知の部分が多く、人にうつる感染症の有無も
わかっていないため、家庭で飼うペットとして
向いてはいません。

野生動物への接触や ペットとしての飼育は避けましょう

野生動物はどのような病原体を
保有しているか、わかりません。



むやみに近寄ったり
触らないようにしましょう

ペットに野生動物を近付け
ないようにしましょう

つい、触りたく
なりますが…



どんなに
可愛くても
ハイリスク!

❗ 家庭での飼育には 向かない野生の動物

日本国外ではイヌなどに噛まれて感染・発症し
100%死亡する「狂犬病」も現存しています。
海外ではイヌやネコなどのペットを含め、どんな
動物にも近寄らないのが一番の予防策です。

は虫類 ネズミ サル
コウモリ キツネ 観賞魚
リス アライグマ など

砂場や公園で遊んだら 必ず手を洗いましょう



動物が排泄を行うことの多い砂場や公園は
感染症の危険度が高い所です。

子どもの砂遊びの後や、庭の
草むしり・土を触った後には
手をよく洗いましょう

人が利用する場所にフンが落ちて
いたら、速やかに処理しましょう

ペットは目の届く範囲で
行動させましょう

放し飼いは
やめましょう

体の調子がおかしいと感じたら 早めに医療機関を受診しましょう

ペット由来感染症は風邪やインフルエンザの
ような症状や、一般的な皮膚病に似ている
場合が多く、発病しても発見が遅れがちです。
また、幼い子どもや高齢の方、糖尿病の方、
アルコール性肝障害の方は重症化しやすい
ので注意が必要です。

受診する際には

- ◎ペットの飼育状況
- ◎ペットの健康状態
- ◎動物との接触状況を
医師に伝えましょう

ペットの健康状態に注意しましょう

動物は病原体に感染しても無症状で
あったり症状が軽いことがあるため、
知らないうちに飼い主が感染して
しまう場合もあります。



ペットが病気と診断されたら
人にうつる可能性があるか
獣医師に確認しましょう

日頃から健康に気を配り、
定期検診などで異常を早く
見つけることが大切です

ノミやダニは病原体を
媒介することがあるので
定期的に駆除しましょう